

はばたき21

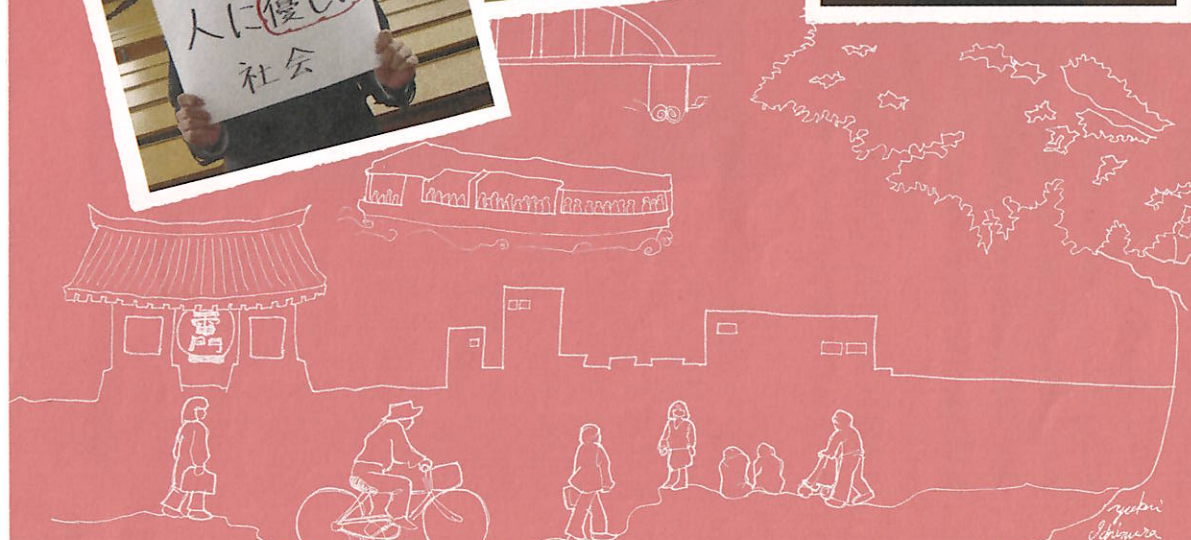
通信

2014.3
No.27

「少子化」



●区民学習活動支援事業対象講座レポート
「これからどうなるの?」～結婚・家族・女性の未来～
講師 山崎 新さん(クシマエ法律事務所 弁護士)
●未来を担う世代に聞きました
「もつ子育てしやすい社会」とは?



これからどうなるの？

結婚・家族・女性の未来

クラマエ法律事務所

弁護士

山崎 新さん
やまざき あらた

「社会と人間の本质は家族の中に表われる」と、結婚相談所で働いていたときから感じていたという山崎さん。当たり前と思っていることが、本当に当たり前か？ 男女は平等に扱われているのか？「家族」「結婚」の問題に詳しい弁護士山崎新さんの講座です。



やまざき あらた さん

心理学を卒業後、社会人経験の後に弁護士に転身。女性だけの法律事務所「クラマエ法律事務所」に所属。扱う分野は離婚が8割（ほぼすべてDV事案）・労働事件・セクハラ・性暴力被害・その他、主に女性の権利に関する活動をしている。日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会委員。東京弁護士会両性の平等に関する委員会副委員長。

法律に見る「家族」と「結婚」

明治時代の日本は戸主や家督といった家制度があり、妻である女性は法律行為をする能力がないものとされていました。戦後の憲法改正に伴って改正された民法では、それまでの戸主権・家督相続権を中心とした家制度が廃止され、個人主義が押し進められました。しかし、いまだに民法には差別的な規定が残っており、国連の女性差別撤廃委員会などから、再三にわたり「女性差別にあたる」として是正勧告を受けています。

たとえば男女の婚姻可能年齢が違う（男性18歳以上、女性16歳以上）、女性だけに再婚禁止期間がある（6カ月間）、夫婦の同氏強制、婚外子の相続差別などがあります。

夫婦の同氏強制については現在高裁で裁判中ですが、夫婦の氏（名字）は民法750条で「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の氏を称する」とあり、法律上は夫でも妻でもどちらの姓になってもよいのですが、実際には96%以上の夫婦が夫の氏を称しています。この結果を見れば平等とは言えないのではないかとことです。

婚外子の相続差別についても

2013年9月4日、最高裁は、結婚していない男女の間に生まれた子（婚外子）の法定相続分を、結婚した男女の子（婚内子）の半分とした民法の規定を、差別にあたるとして無効とする決定をし、それにそうよう民法も改正されました。

平等とは

憲法24条は婚姻の自由と家族における両性の平等を定めています。憲法14条は「すべての国民は法のもとに平等」とありますが、ここからあえて家族における両性の平等を取り出して24条に定めた意味は重

結婚に対する男女の意識の違い

ダーエンパワーメント指数（男女の国会議員比率、男女の専門職・技術職比率と管理職比率、男女の推定勤労所得を用いて算出）をみると、日本は109カ国中57位（2009年「人間開発報告書」と低い順位です。このままでは女性が意思決定できる地位に立てる可能性は低いので、男女の数の差を均等にするためのポジティブ・アクションが必要です。

現代の若者結婚事情

私は少子化の原因は未婚率の上昇が一番大きな要因と見ています。結婚しない子どもを持ちにくい社会のため、未婚率の上昇が必然的に少子化につながっているのです。50歳時点で一度も結婚したことがない人の割合である「生涯未婚率」（2010年）が、男性で20・1%、女性で10・6%に達し、上昇中です。

一方、18〜34歳の未婚者のうち、「いずれ結婚するつもり」と考えている男女は、9割弱と高い水準にあります。

「異性の交際相手がいらない」「男性は6割、女性で5割と過去最高で、そのうち、「交際を望んでいない」男性は27・6%。女性では22・6%もいます（国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」結婚と出産に関する全国調査2011年）。

結婚相談所で働いていたときの経験ですが、女性の多くは年収500万円以上、大学卒、身長170センチ以上の男性を望んでいました。

一方、男性は自分がたとえ50歳近くても、35歳以下の女性を望んでいました。女性の出産可能年齢は35歳以下という偏見です。つまり男性は、結婚の目的として子どもをもつことを優先しているように見えました。このように男女で相手に求めるものに差がありました。

未婚者に結婚相手に望むことを聞いた調査では、図1の示すように男女で差があります。女性は男性に對して、経済力を重視する傾向があります。一方で、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」とする性別役割分業意識は、賛成とする人の割合が増えるなど、結婚に関する意識も保守傾向が強くなっています。

1年以内に結婚する意欲のある未婚者の割合を職業別にみると、男性では自営業や正規職員が高く、パート・アルバイトや無職などで低くなっており、女性ではそのような差はみられない。このようにデータからは、結婚と経済（雇用）、性別役割分業意識との関係が見えてきます。

日本の労働環境は劣悪です

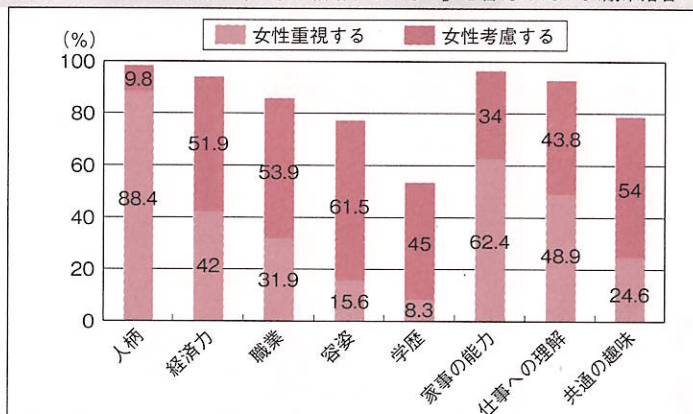
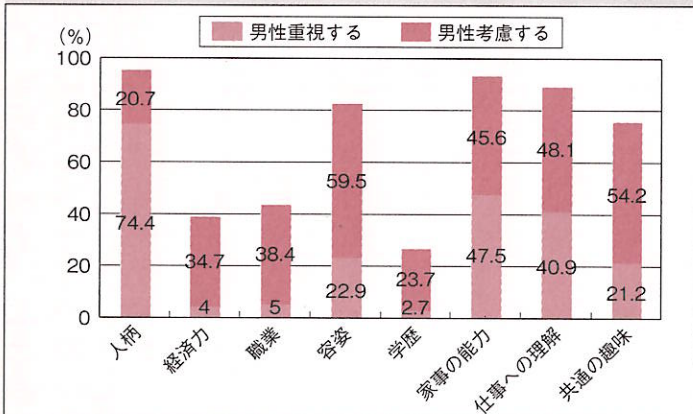
日本は、諸外国に比べ、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）の発想が乏しいといえます。その背景にあるのが労働者の長時間労働です。特に若い世代の労働者は、仕事に多くの時間を費やすため、家庭や家族のため、自分のために使う時間が残されていません。また、非正規雇用の顕著な増加により、賃金格差は拡大し、雇止め止めの不安が常に消えない、そして一度非正規雇用になると正社員になることが非常に難しいという、著しい格差社会なのです。

また、日本では、女性が意思決定に関与できる地位（職場の管理職、議員など）に就いていないことが特徴です。このため、女性の声が社会や組織に反映されません。

これまでの慣行や固定的な性別役割分業意識などが原因で、女性の能力が発揮しにくい環境に置かれています。日本政府は国連の目標にならい、2020年までに指導的地位の女性の割合を30%にするという目標を立てています。しかし、2013年現在、管理職に就いている女性の割合は6.8%です。

図1 結婚相手の条件として考慮・重視する割合の推移

国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」2011年 ※対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18〜34歳未婚者



Q いずれは結婚したい？

室田 僕は自由でわがままな人間なので、結婚はしたくないです。子どももありほしいと思わないですね。育てる自信がない。

大谷 僕は子どもが好きなので、子育てをしたいです。独身だと自分の老後が不安だし、家族は自分の中で大事なもののな。

中塚 僕も残りの人生を共に支えあっているような関係を築きたいので。仕事で困難にぶつかった時や、病気になるたりした時に頼れる人が必要だと思っています。

内田 人生を共に歩んでいけるパートナーがいるということは、素晴らしいことだと思います。

山本 私自分の家庭をもちたいという思いが強いです。

現在は、仕事しすぎな社会だと思います。もう少し貧しくても体がボロボロにならずに生きていける社会になってほしいです。

(伊東理恵子さん)



伊東理恵子さん 今川智博さん
内田憲孝さん 大谷昌弘さん
岡田将洋さん 中塚悠斗さん
室田裕次郎さん 山本有希子さん

大学 4年生

Q 少子化についてどう思う？

室田 僕は子どもを産み育てることは経済的に合理性があると思えない。

大谷 ベビーブームの反動では？

今川 子どもがいなくてもよいという価値観が増えてきたのかも。

伊東 経済状況を考えれば責任を持って子どもを育てられない」と判断した結果だと思。

中塚 年金の問題とかはあるけれど、少子化が身近な問題だと思えない。子どもを2人以上もてば、自分に関しては問題ないような気がしてしまう。



山本 社会全体としては問題だけど、結婚する、子どもを産むというのは個人の自由だと思うので、しない人がいるのは仕方ないと思う。ただ、「したいのにできない」という状況は改善すべきだと思う。

内田 個人が自由に選択するものだから、未婚化・晩婚化・少子化の解決は困難ですね。

大谷 子どもを産み育てたいと思える環境づくりを行うべきだと思います。

人々が互いに余裕をもって、大目にみることができると「認める」と「優しさ」が尊重される社会。社会が人を大切にしようとする、もっとよくなると思います。知足安分できる社会。(岡田将洋さん)

「もっと子育てしやすい社会」とは？

子育てに関する理解を共有できる社会。子どもへの虐待につながるようなストレスのない社会。(中塚悠斗さん)

子育て支援が充実すればいいと思います。例えば育休をとりやすくなるとか保育所の整備とか。(内田憲孝さん)

「職住近接」した社会。コンパクト・シティ。(室田裕次郎さん)

地域との繋がりがある社会。困ったときは助け合える環境があればいいですね。障がいがある人や、子どもに対しての偏見もなくなればいいと思います。(大谷昌弘さん)

育休や有休をもっと負目なく、自然にとれる企業が増えてほしい。私も含めて周囲には、子育てしながら働きたい女性が多いです。(山本有希子さん)

結婚して

齋藤こころさん (23歳)
20歳で結婚。夫とコンビニ経営。

Q. これまでの人生の選択については？

人生の選択は自由にしてきたと思っています。結婚とかも自由に選べました。今は仕事が忙しくて、残念ながら子どもをつくることは後回しになっています。

親 になって

すべての人が、お互いに偏見をなくして、相手の気持ちを考え、自分がされたら嫌なことを相手に決してしない。というのが簡単ですが、難しいのが人間だとも思います。

鈴木涼介さん (19歳)
18歳で結婚。とび職。妻(20歳)と息子(生後6カ月)の3人暮らし。

Q. 結婚を決めたのは？

20歳までに結婚して赤ちゃんをもつのが夢でした。自分は長女で妹と歳が離れているため、オムツ替えをしたり、あやしたりして、近所の小さい子たちのお世話も好きで、早く子どもがほしいと思うようになりました。子宮内膜症といわれたこともあり、若いうちに子どもがほしいと思いました。小6の時に親が離婚して寂しかったので、両親そろって子育てしてなるべく長く子どもと一緒にいたい。

Q. 少子化についてどう思う？

友達にもできちゃった婚の人とか、たくさんいます。共働きで大変でも、何とかなっているの、子どもの欲しい人はつくって、頑張っていけばいいと思います。

Q. 結婚を決めたのは？

好きになった瞬間からです。好きになった瞬間はどういう状況だったかという...話が長くなるので、またいずれ機会があったら話します。とにかく、かなり最初のうちからこの人と結婚したいと思っていました。

Q. 少子化についてどう思う？

深く考えたことはなかったです。少子化についてとは違うかもしれませんが、僕は90年代の音楽が好きなので、年上の人と話が合うのですが、同世代で話が通じる人が少ないのはせつないですね。

Q. これまでの人生の選択については？

失敗はないと思います。いや、失敗はあったかもしれませんが、後悔はないです。19歳という年が若いという人もいますが、僕はもう若くないと思います。のんびりしていたらすぐオジさんになってしまいます。そういう不安はありますが、不安になっている暇があったらまず一歩踏み出すことで、自分の人生は変わると思います。がんばります。

結婚も離婚もしにくい社会

図2 結婚・家族に関する未婚男性・未婚女性の賛成意見割合
国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査の結果概要調査」(2011年)
※対象は18～34歳の未婚者(参考に示した妻は初婚同士の夫婦の35歳未満の妻を対象)

結婚・家族に関する考え方	未婚男性		未婚女性		妻(夫婦調査)	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
①生涯を独身で過ごすことは望ましい生き方でない。	64.0	31.9	57.1	39.4	57.9	38.7
②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである。	73.5	22.8	67.4	29.4	68.5	28.5
③結婚前でも愛情があるなら性交渉してもいい。	84.0	11.9	83.2	13.0	89.2	7.7
④どんな社会でも男らしさ・女らしさは必要だ。	86.1	10.4	85.0	11.8	88.2	9.1
⑤結婚後も家族や相手とは別の自分だけの目標を持つ。	81.2	14.9	84.2	11.9	84.9	12.2
⑥結婚後、家庭のために自分の個性を半分犠牲にする。	58.2	38.0	45.4	51.2	52.4	44.8
⑦結婚後は、夫は外で妻は家庭を守るべき。	36.0	60.1	31.9	64.7	30.9	66.2
⑧結婚したら子どもは持つべき。	77.3	18.7	70.1	26.3	67.8	28.6
⑨子どもが小さい時は、母親は仕事を持たずに家にいる。	73.3	22.9	75.4	21.5	66.2	30.7
⑩結婚後は性格の不一致ぐらいで離婚すべきでない。	72.3	23.8	62.2	34.1	58.2	38.5
⑪結婚してなくても子どもを持ってもいい。	31.6	64.7	33.7	62.9	39.1	57.9

こうした雇用環境を背景に、結婚と離婚を見てみましょう(図2)。結婚したら子どもをもつべきという意識は男女ともに高いけれど、仕事と子育ての両立への不安は大きく、最近の若い女性は結婚して子どもを産んだ後に仕事を続けることができるとは考えていないようです。そのため年収の高い男性と結婚し、専業主婦になりたいという女性も多い。しかし、雇用が不安定な社会で、特に若い男性の年収はそれほど高くなく、妻と子どもを養っていくには足りないのが実状です。そのため、求めるものと現実ギャップがあり、未婚率の上昇の一因となっています。

一方、離婚に目を向けてみると、社会が不安定になってくると結婚生活に経済的安定を求めるようになり、その結果、離婚は避けるべきという考えも強くなるように思います。結婚して一人前とか、離婚なんて世間体が悪いとかよくいいますよね。結婚へのハードルが高く、いったん結婚すると、その結婚を維持しなければならぬという圧力も強いのが現実ではないでしょうか。

離婚は避けるべきという考えを背景にして、DVの被害認知件数も増加しています。私のところには

DV被害者が多く相談に見えますが、離婚を躊躇する方は多いです。理由を聞くと、「経済的な不安」と「子どものために別れられない」というのです。

特に女性は、離婚について経済的な不安が大きい。ひとり親家庭の相対的貧困率(厚労省国民生活基礎調査2010年)は50・8%となっていますので、確かに離婚したら経済的には厳しくなることは避けられません。しかし、子どもにとっては、「おまえがいたから離婚しなかった」と責任を負わされ、母親がDVを我慢して生きる姿を見るよりも、母親が笑って暮らしている姿を見るのが一番幸せなはず。子どもがかわいそうだから離婚できないというふうには考えてほしくないと思っています。

多様な価値観 親世代の常識は通用しない

結婚する時もありますが、離婚する時も親が干渉するのって話がある。じれるように思います。親と子の世代間に結婚や家庭をめぐる意識の格差があります。雇用をめぐる社会が変化し、格差が広がっている中、生き方の選択肢も増えています。結婚をめぐる価値観が多様化してき



ている中で、親世代の常識は通用しないということをしっかりと意識して、見守りに徹することが重要です。結婚も離婚も、「お前が選んだものはお前が責任とれ」と自己責任論で語られることが多いですが、本当に自分で選んでいるのか?ということを知りたいです。自己決定をするのが前提です。離婚する、しないということも、後悔しないためには情報収集能力と、冷静かつ客観的な分析力が必要です。そこで、結婚や離婚についての価値観を見直していただきたい。結婚の重圧からの解放と、離婚のハードルからの解放、当たり前からの脱却が必要です。

若者のチャレンジを 推奨する教育の重要性

日頃相談を受けていて、若者世代の自己肯定感が非常に低いと感じます。これは教育において若者の決定が尊重されていないこと、経験不足によると考えています。まずやってみて失敗から学ぶことは多いのです。これを結婚についていえば、結婚前に恋愛の経験を積んでいることが、自由な結婚への条件だと私は考えています。「いつべんふられて

から結婚しろ」ということです。ふられたことのない人は、結婚後に自分が配偶者から嫌われる状況を理解できないのです。「なんで自分がこんなにしてやっているのにお前は俺から離れていくんだ」って。こうした感覚がDV被害者にあります。しかし、結婚前に恋愛したり同棲したりという若者のチャレンジについて、大人世代がそれを推奨してあげないですよ。特に「結婚するまでは性経験なんかない方がいい」という価値観の人にもいます。そのた

め性教育はしない方がよい、性に関する情報を与えず「純潔」なまま結婚するのがよい、というような古い価値観はいまだにあります。

よくも悪くも社会には性に関する情報があふれ、若者たちは経験を積んでいるのです。大切なのは、若者が雑多な情報から正しい情報を見分ける能力と、自分と相手を尊重した男女関係を営める能力を育むことです。まずは自由な選択を尊重する、そして、失敗したときには大人が総出で助けてあげる、それが

教育の役割ではないでしょうか。教育現場にいる方にはそのような視点をもっていただきたいし、それを支援する教育の仕組みを作ってもらいたいと思います。そのように教育が変われば、いずれは「結婚したい人が結婚でき、結婚したくない人はしなくてもよい社会」「離婚しても自由に暮らせる社会」「家庭の中で暴力がない社会」につながっていくと思います。

男女平等推進フォーラム講演会

2013(平成25)年9月29日開催

それってどうなの?

はじめは小さなつづきから

講師 斎藤美奈子さん

(文芸評論家)



「女性のあるべき姿」というものを、社会がどれほど自然に、当たり前のこととして私たちに求めてきているのか。身近なニュースやwebサイト、文学作品から例を引きながらのわかりやすいお話でした。

最近の言葉「女子力」があるという女性像は、一歩引いて男性や目上をたて、自分はサポートに回ることを上手にアピールできることだったり、セクハラに遭うのは女性の側に隙があるからだとしたり。男女平等とはとても言えない現状がそこに現れています。

男性と女性であらかじめ上下がある、ふるまい方のフォーマットを規定されている。そういう差別を当たり前として受け入れた上に成り立つ情報を、webなどでどんどん流している。それを見てまたふるまいを変える人も現われる。これは怖いことだなと感じました。

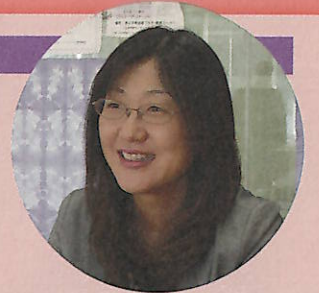
そういう、「変だな」と言う状況に置かれたり、情報にふれた時は、違和感を大事に、放っておかず、忘れず、表明していくことが大切。

表明というのは議論したり、論文にまとめたりと大掛かりなことではなく、自分の環境の中で、ちょっとした発言やふるまいを積み重ねること。そのためのスローガン、「あいえお攻撃」を紹介され、締めくくりとなりました。

あいえお攻撃 「変だな?」と思ったら・・・

- あ** あきれる(「変なことを言ったかな」と思ってもらえるように)
- い** いかる(「私、怒っちゃいますよ」と言う)
- う** うなる(「ふーん、そんなふうには思っていたんですね」と)
- え** え～～～!!! (違和感を表明する)
- お** オウムがえし(相手のいうことをそのまま返す)

(市村)



「つらくても、一歩前に出ればゴールに近づける」

2013（平成 25）年 4 月、台東区立男女平等推進プラザに着任した、月岡さん。「バイタリティあふれるプラザ長」との前評判どおり、プライベートでは 4 人の子の親にして、ホノルルマラソン 6 回、東京マラソン 2 回を経験するというツワモノ。どこから、そんなパワーが生まれるのか興味津々うかがいました。

●走るの嫌いです（笑）。

マラソンは、一歩足を前に出せば、ゴールに近づけるんです。自分を追い込むというか、極限にもっていくのが好きなかもしれません。離婚を経験した後、メンタル的に強くなりたいと思いマラソンを始めました。今では、子どもと一緒に参加しています。子どもは鼻血を出しながらも完走していますよ、相当辛かったらうけど。

●あまり先のことを考えないのが、長所で短所。

小学生の時に父が亡くなり、母の働く姿をずっと見てきました。21歳で結婚し、子どもには寂しい思いをさせたくないと思いつつも、育児休業制度があったので、働きながら4人の子どもをもちました。今では、どうせなら、格好良く楽しく働きたいと思っています。「4人の子どもがいても、係長職はできるよ」と、身をもって伝えたいです。先のことは、いいことしか考えませんね（笑）。不安なことばかり考えて諦めてしまったら前には進まないし、頑張ることによって後から結果がついてくると思っています。

●若い方から年配の方まで、一緒になって何かやれる場所は、なかなかないと思います。

毎月第 3 土曜日午後開催の、コミュニティ・カフェに遊びにきたり、ボランティアに参加したりと、男女平等推進プラザを世代を超えてもっと利用してほしいと思います。一つのことを一緒にやることによって、イキイキしたり、ライフワークを見つけてもらいたいです。男女平等の一番の問題は、一人ひとりの意識にあると思います。「男が前、女が後ろ」というような従来の考えに疑問をもったり、多様な選択肢があることに気づいてほしいと思います。男や女として選ぶのではなく、一人の個人として選んでもらいたいです。

●終わりのない情報発信に力を入れていきます。

DV 被害者の方など直接情報が届きにくい場合も、地域の支援者などを通して、支えていきたいと思っています。それを現実的に形にしていけることが、私の仕事だと思っています。

もっと身近に「はばたき21相談室」

☎ 03-5246-5819 （予約専用）

●こころと生きかたなんでも相談

女性のカウンセラーが相談に応じます。
火・土 10 時～16 時（託児あり・要予約）
水・木 17 時～21 時
～電話・面接どちらも可～
※面接相談は女性のみ。電話相談はどなたでもご利用いただけます。

●女性弁護士による法律相談

第2水曜日 13 時～16 時
第3木曜日 10 時～13 時
第4火曜日 16 時～19 時
～面接相談（女性のみ）～

秘密は
守ります

相談は
無料です

DV 専門電話相談 03-3847-3611（予約不要）

毎月第3水曜日 13:30～16:30

台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」

交通機関

- JR 山手線・京浜東北線「鶯谷駅」南口 徒歩約 15 分
- 東京メトロ日比谷線「入谷駅」1 番出口 徒歩約 8 分
- 銀座線「田原町駅」徒歩約 12 分
- つくばエクスプレス「浅草駅」A2 出口 徒歩約 7 分
- めぐりん「生涯学習センター南」・「生涯学習センター北」共に徒歩 3 分
- 都バス「入谷 2 丁目」徒歩 3 分・「西浅草 3 丁目」徒歩 5 分



編集・発行 台東区総務部 人権・男女共同参画課 男女平等推進プラザ「はばたき21」

〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 生涯学習センター4階

電話 03-5246-5816 / E-mail habataki21@taitocity.net

開館時間 9時～22時

休館日 第1・第3・第5月曜日（祝祭日にあたる場合はその翌日）・年末年始

情報誌編集委員 市村有花里・加藤厚子・鈴木美千子・三村睦

はばたき21通信 27号

公募による情報誌編集委員が
企画編集しています。

100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

VEGETABLE
OIL INK